

会議に、25人もの参加者を送り込み、この会議の招致に意欲的に取り組んでいるようだ。

今後、HKTは、2年に1回はヨーロッパで開催し、もう1回をヒマラヤ-カラコルム-チベット地域で行う方向が示された。ヨーロッパで開催されると、地元ヒマラヤ-カラコルム-チベット地域からの参加者はどうしても少なくなってしまう。今回この方針が示されたことで、現地討論など地元研究者との交流の場が確保され、研究成果が地元還元されやすくなるなど、今後の研究の進展が期待される。毎年開催するのは頻繁すぎるという意見もあったが、最新の研究成果を議論する場として毎年開催する方向が大勢のようである。

日本におけるヒマラヤ地域の研究活動は、地質学会に「ヒマラヤ地質研究委員会(事務局代表・北海道大学在田一則教授)」が設置され、それを中心に活動が進められており、その電子メールネット“Namaste News”はこの地域の研究に関する重要な情報源ともなっている。今回の会議の報告もすでに発信されている。

HKTは小規模な国際ワークショップであるが、14年間も継続してきており、今後も着実に継続され、ヒマラヤ-カラコルム-チベット地域の地球科学に

関する重要な会議としての位置づけも今後一層定着していくことだろう。

謝辞：北海道大学 在田一則、東京工業大学 安間了、鹿児島大学 山本啓司氏をはじめ、日本からの会議参加者の方々、GSP Gauhar 所長、地質科学研究所 Sakhawat, Said Rahim, Tahseenullah の各氏をはじめ多くの方からお世話になった。また、いままでのHKTに関する情報は在田一則教授からいただいた。須藤定久 資源解析研究室長には原稿を査読していただいた。ここに記して感謝する。

#### 参考文献

- Hamidullah, S., Lawrence, R. and Jan, M.Q. (1998) : Abstract 13th Himalaya-Karakoram-Tibet International Workshop, Geol. Bull. Univ. Peshawar, vol.31.
- Jan, M.Q. (1998) : 13th Himalaya-Karakoram-Tibet International Workshop, Episodes, vol.21, 106.
- Kazmi, A.H. and Jan, M.Q. (1997) : Geology and Tectonics of Pakistan, Graphic Pub., Karachi, pp554.
- Lawrence, R.D. and Khan, M.A. (1998) : A Field Trip on the Karakoram Highway (Draft), Peshawar.
- 地質ニュースパキスタン特集号(1998年5月 no.525)
- 芳野 極(1998) : 第13回Himalaya-Karakoram-Tibet International Workshopに参加して。日本地質学会NEWS, vol.1, no.7, 30-31.

OGASAWARA Masatsugu (1998) : 13th Himalaya-Karakoram-Tibet International Workshop, Peshawar, 1998

<受付：1998年7月3日>

## お知らせ

### 「第40回科学技術映像祭」学術研究部門参加作品募集

内容：本映像祭では、研究者個人または機関の作成した学術映像も募集しています。学会のビデオセッションでおかけになる、学術価値の高い映像を是非ご応募下さい。詳しくは<http://www.jsf.or.jp/shinko/>をご覧ください。

締切：1999年1月29日(必着)

発表：1999年3月上旬

表彰：内閣総理大臣賞、科学技術庁長官賞ほか

連絡先：〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1

日本科学技術振興財団 振興部 四村

TEL. 03-3212-8487 FAX. 03-3212-0014